


中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

ICTと気候変動専門委員会

1/3

企画戦略委員	上茶 雄 (NTT)、榮 浩三 (ドコモ)	登録委員数	13/(1グループ)5																			
正副委員長 リーダー・サブ	委員長：飯橋 真輔 (NTT-AT)、副委員長：端谷 隆文 (富士通)	図解																				
活動の目的・意義	<ul style="list-style-type: none"> ICT設備のエネルギー効率の評価やスマートエネルギー実現要件、廃棄物削減への各種要件の整理、評価方法の構築に加え、ICTを活用することによる環境貢献の評価方法を構築することで、ICT自らの環境負荷低減やICTが他セクタへ与える環境貢献を訴求するとともに持続的な社会実現に貢献する。 なお、環境課題への貢献の定量化手法は、その妥当性の検証が困難であり、標準化の枠組みにて、国際社会間での合意を形成することが有効である。 また、環境効果を得るためには、一定の経済的損失を要する場合があるため、法的手段と同様に、標準化による指針（や制限）の設定が有効。 	各課題と対応する環境課題																				
活動する上での課題	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動によるリスクが避けられない中、SDGsをはじめとする目標が設定されており、その達成度や貢献を示すために、ICT自らおよび利活用による貢献量の定量手法が望まれている。しかし、気候変動の緩和を除いて、その貢献量を定量化する手法・技術が未開発の状況。 そのため、国内で新たな評価手法が開発された場合はいち早くアップストリームするとともに、国外で有益手法があれば速やかにダウンストリームすることが必要。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1207 279 1265 351">環境課題区分</th> <th data-bbox="1265 279 1477 351">ICT自らの対応</th> <th data-bbox="1477 279 1924 351">ICT利活用による他セクタへの貢献</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1207 351 1265 494">気候変動への対応</td> <td data-bbox="1265 351 1477 494"> <ul style="list-style-type: none"> 原因の緩和 (GHG排出削減) </td> <td data-bbox="1477 351 1924 494"> <ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (効率化、省エネ) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1207 494 1265 665">リスクへの適応 (8つのリスク)</td> <td data-bbox="1265 494 1477 665"> <ul style="list-style-type: none"> HVDCなどICT機器の効率化技術を勧告 ラベリング評価 </td> <td data-bbox="1477 494 1924 665"> <ul style="list-style-type: none"> 貢献量評価技術を勧告化、評価事例のサブリメント化 プロの負担 (防災、農業IT、健康etc) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1207 665 1265 836">循環型社会の実現</td> <td data-bbox="1265 665 1477 836"> <ul style="list-style-type: none"> 資源枯渇 資源循環 </td> <td data-bbox="1477 665 1924 836"> <ul style="list-style-type: none"> 要求事項・要件の整理 E-waste 3R </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1207 836 1265 979">貧困対策</td> <td data-bbox="1265 836 1477 979"> <ul style="list-style-type: none"> 自然資本の維持・保全・持続的利用 (生態系保全) </td> <td data-bbox="1477 836 1924 979"> <ul style="list-style-type: none"> 事例の提供 プロの負担 (脱物質化、効率化、etc) </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1207 979 1265 1108"></td> <td data-bbox="1265 979 1477 1108"> <ul style="list-style-type: none"> 資源利益の公平化 生活環境改善 教育・技術促進 </td> <td data-bbox="1477 979 1924 1108"> <ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (監視、農業Itetc) </td> </tr> </tbody> </table> <p>現在が活動の対象外であるが、SDGsを鑑みて将来的に検討が望まれる領域</p>			環境課題区分	ICT自らの対応	ICT利活用による他セクタへの貢献	気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 原因の緩和 (GHG排出削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (効率化、省エネ) 	リスクへの適応 (8つのリスク)	<ul style="list-style-type: none"> HVDCなどICT機器の効率化技術を勧告 ラベリング評価 	<ul style="list-style-type: none"> 貢献量評価技術を勧告化、評価事例のサブリメント化 プロの負担 (防災、農業IT、健康etc) 	循環型社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 資源枯渇 資源循環 	<ul style="list-style-type: none"> 要求事項・要件の整理 E-waste 3R 	貧困対策	<ul style="list-style-type: none"> 自然資本の維持・保全・持続的利用 (生態系保全) 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の提供 プロの負担 (脱物質化、効率化、etc) 		<ul style="list-style-type: none"> 資源利益の公平化 生活環境改善 教育・技術促進 	<ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (監視、農業Itetc)
環境課題区分	ICT自らの対応	ICT利活用による他セクタへの貢献																				
気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> 原因の緩和 (GHG排出削減) 	<ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (効率化、省エネ) 																				
リスクへの適応 (8つのリスク)	<ul style="list-style-type: none"> HVDCなどICT機器の効率化技術を勧告 ラベリング評価 	<ul style="list-style-type: none"> 貢献量評価技術を勧告化、評価事例のサブリメント化 プロの負担 (防災、農業IT、健康etc) 																				
循環型社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> 資源枯渇 資源循環 	<ul style="list-style-type: none"> 要求事項・要件の整理 E-waste 3R 																				
貧困対策	<ul style="list-style-type: none"> 自然資本の維持・保全・持続的利用 (生態系保全) 	<ul style="list-style-type: none"> 事例の提供 プロの負担 (脱物質化、効率化、etc) 																				
	<ul style="list-style-type: none"> 資源利益の公平化 生活環境改善 教育・技術促進 	<ul style="list-style-type: none"> ICTソリューションの貢献 (監視、農業Itetc) 																				
関連のSDGsゴール																						
標準化方針	<ul style="list-style-type: none"> ICTの利活用による環境影響評価手法や機器・設備の高エネルギー効率・低環境負荷設計、循環型社会の実現、気候変動適応など、対象が広範囲であることが特徴であるため、全体を網羅しつつ、日本の優位性を確保できる分野に注力して進めていくとともに、成果普及も重点的に進める。 特に、簡易な環境影響評価手法の検討、デジタルテクノロジーの進化に伴う効果やその評価のあり方の変化に対応した評価手法の検討、また、気候変動適応におけるICTソリューションなどは日本に先行優位性がある分野と考えられ、それらの領域に注力して推進する。 	<p>■ Q6/5、■ Q7/5、■ Q9/5</p> <p>※GHG:温室効果ガス (Green House Gus)</p> <p>※8つのリスク：気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第5次評価報告書において気候変動による8つのリスクが重要な驚異として示されている</p> <p>参考) 環境省HP http://www.env.go.jp/earth/ipcc/5th/index.html</p>																				
国内外標準化団体動向	<ul style="list-style-type: none"> 欧州委員会は、EUのグリーンICTを推進している。ETSI、IEC、ITU-Tなど、代表的な標準化団体で策定されていく気候変動に関する標準規格を域内の規制に利用 ISOでは、ISO/TR14069「温室効果ガス－組織のGHG排出量の定量化及び報告－ISO 14064-1に対する技術的手引」が発行 																					
関連する専門委員会	IoT・スマートシティ専門委員会：スマートシティ関連の事項																					

重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> H29年度に、課題の統廃合が行われたが論点は継続されており、日本としては引き続き、気候変動への適応策、ICT持続可能評価、エネルギー効率測定法に関わるテーマを中心に、標準化対応および成果普及を重点的に進める。 			
主な活動項目	概況指標	2018年度目標（当初計画時）	2018年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	2件	9月の会合に1件提出を予定していたが、調整不足により提出を断念	
	外部会合への 参加・連携状況	SG5会合：9月	SG5会合：9月	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件	0件	
	TS/TR/SR	0件	0件	
③ ダウンストリーム	数	0件	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	・2019年度中に1回開催	・次年度開催に向け継続検討	
	記事投稿、講演会	・TTCLレポート投稿	・TTCLレポート（2018・10）にSG5会合の記事投稿	

重点取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 日本としては引き続き、気候変動への適応策、ICT持続可能評価、エネルギー効率測定法に関わるテーマを中心に、標準化対応および成果普及を重点的に進める。 			
主な活動項目	概況指標	2019年度目標（当初計画時）	2019年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	1件	-	
	外部会合への 参加・連携状況	SG5会合：5月，9月		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件		
	TS/TR/SR	0件/0件/0件		
③ ダウンストリーム	数	0件		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	セミナー 1回（H31/3Q）		
	記事投稿、講演会	TTCLレポート活動報告：随時		